

区 分	内 容
会 議 名	県都まえばし創生本部第4回有識者会議
日 時	平成28年1月14日(木) 13時30分～15時35分
場 所	庁議室
出 席 者	<p>【委員】 (産) 曾我座長、横堀委員、黒岩委員 (学) 星委員、窪田委員、大森委員 (官) 松本委員、深津委員 (金) 南委員、武者委員、 (労) 斎藤委員 (言) 鎌田委員 (住民) 木暮委員、梅澤委員</p> <p>※小中委員、松井委員、阿部委員、鈴木委員、角田委員は都合により欠席</p> <p>【地方創生ワークショップ参加者】 (子育てと仕事の両立) 損害保険ジャパン日本興亜 山出 あゆみ 群馬ヤクルト販売 町田 朝美 前橋市役所 市川 美智子 (学生の定着) 前橋工科大学 苗洪 航 前橋国際大学 高野 里紗</p> <p>【前橋市】 山本市長、細野副市長、藤井政策部長、谷内田政策推進課長、原田政策推進課長補佐、樋山副主幹、小林主任、神保主事</p>
発 言 内 容	<p>—開 会—</p> <p>藤井政策部長</p> <p>ただいまから、県都まえばし創生本部第4回有識者会議を始めさせていただきます。私は、本日の司会を務めます、前橋市政策部長の藤井と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>本来であれば、山本市長からご挨拶申し上げるところではございますが、他の公務で遅れております。公務が終わり次第、駆けつける予定となっておりますのでよろしくお願いいたします。それでは議事に入ります前に、配布資料の確認をさせていただきます。本日の配布資料は、7種類でございます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 次第 2 出席者名簿 3 資料1 地方創生ワークショップ開催結果概要 4 資料2 前橋版人口ビジョン・総合戦略の構成(案)

5 資料3 前橋版人口ビジョンの数値修正について（報告）

6 資料4 前橋版総合戦略（案）

7 資料5 前橋版総合戦略の体系（案）

以上でございます。不足しているものがありましたらお申し出ください。

次に、本日の出欠状況でございますが、お手元の出席者名簿のとおり、小中委員、松井委員、阿部委員、鈴木委員、角田委員の5名が都合により欠席となっております。

それでは、議事に移ります。ここからの進行は、県都まえばし創生本部有識者会議設置要綱第5条第2項により、曾我座長さんをお願いします。

誠に恐れ入りますが、曾我座長さんにおかれましては、冒頭にご挨拶をいただいた後に、議事に入っていただければと思います。どうぞよろしくお祈りします。

—議 事—

曾我座長

皆さんこんにちは。ご紹介を賜りました座長を務めます前橋商工会議所会頭の曾我でございます。本日で有識者会議は第4回となります。委員の皆さま方におかれましては、年の始め何かとお忙しい中、ご出席いただきまして心より御礼申しあげます。有識者会議も3回を重ねまして、さまざまなご意見をいただいたところでございます。第3回有識者会議で子育て世代など、若い方の意見も聞くことが必要だろうというご意見がございましたので、事務局が地方創生ワークショップを開催していただきました。12月14日に「子育てと仕事の両立」をテーマに色々なご意見を頂きました。ファシリテーターとして大森委員様に務めていただきました。お集まりいただいた方々から活発なご意見をいただきました。また、12月22日には「学生の定着」をテーマに、こちらも大森委員様にファシリテーターを務めていただきました。これらについては総合戦略にまとめていく中で現場の声として大切にしながら取り入れていきたいと考えております。なお、本日は「子育てと仕事の両立」ワークショップにご参加いただいた方の中から損害保険ジャパン日本興亜 山出あゆみ様、群馬ヤクルト販売 町田朝美様、前橋市役所 市川美智子様にご参加いただいております。

また、「学生の定着」ワークショップからは、前橋工科大学 苗浜航様、共愛学園前橋国際大学 高野里紗様にご出席をいただいております。進行の中でご発言をいただくことになっておりますのでよろしくお願いいたします。

本日有識者会議も第4回となります。貴重なご意見をいただき、大変ありがたいなと感じているところでございます。それではまず、議事の(1)ワークショップの結果報告について事務局から説明をしていただきます。

原田政策推進
課長補佐

事務局を担当しております、政策推進課の原田と申します。まず、ワークショップの結果について報告いたします。資料1「地方創生ワークショップ開催結果概要」をご覧ください。先ほど座長さんからご説明いただきましたとおり、前回の有識者会議におきまして「若い世代の目線に基づいたご意見をいただい

た方がよいのではないか」というご意見をいただき、昨年の12月に2回ほどワークショップを開催いたしました。資料1にありますように最初は「子育てと仕事の両立」をテーマに日本政策金融公庫の方をはじめとする12名の女性の方に参加をいただきました。

また、2回目のワークショップでございますけれども「学生の定着」をテーマに前橋工科大学、群馬大学、前橋国際大学から12名の学生さん達にご参加をいただきました。この2つのワークショップのファシリテーターに大森委員さんにお世話になったところでございます。先ほどご紹介をいただきましたとおり「子育てと仕事の両立」ワークショップから3名の方、「学生の定着」ワークショップから2名の方にお越しをいただいております。代表しまして、「子育てと仕事の両立」ワークショップから山出あゆみ様に、「学生の定着」ワークショップから苗浜航様にワークショップの報告、ご感想をいただき、その後、2つのファシリテーターを務めていただいた大森委員さんから総括をいただければと思います。それでは山出様からよろしく願いいたします。

山出さん

はじめまして。損害保険ジャパン日本興亜群馬支店の山出と申します。本日はよろしく願いいたします。12月14日開催の地方創生ワークショップについてですが、弊社では女性活躍推進を積極的に進めております。社外での様々な活動を行っている中でお声掛けをいただきました。こちらのワークショップは20代から40代の女性12名で「子育ての仕事の両立」をテーマにディスカッションを行いました。ワークショップの参加には企業、社会の課題を事前に考え、アンケートとして提出した上で臨んでおります。資料1が企業・行政・社会の課題を集約したものになります。企業の課題について説明をさせていただきますが、産休・育休以外にも女性活躍を推進する制度が整ってきておりまして、制度を活用している人も増えてきております。しかしながら、人員に余裕のある企業は少なく、両親など家族の支援があつて家庭と仕事の両立が成り立つケースも少なくはありません。そして女性に限った話ではないですが、可能であればシフト制による勤務、時間短縮での勤務、在宅勤務などフレキシブルな働き方に変革できると望ましいとの意見が出ております。

次に、行政についてですが、最も多く出た意見が保育施設の更なる拡充でした。現在、前橋市では保育所に係る待機児童は無いものの、地域によっては保育所が十分に整備されていないと聞いており、働く母親向けの施設、サービスについてはまだまだ不十分だといえます。

企業内の保育施設や、福利厚生 of 更なる充実で女性の就労率アップに繋がりますが、ランチ企業だけでは対応できない場合もあります。複数の企業や行政と連携できればよいという意見が出ています。

次に社会ですが、女性がキャリアアップを目指す場合、長時間労働をせざるを得ない状況もあります。長時間労働の是正は、男女問わず問題視すべき課題であるように思います。長時間労働は、結果的に男性の育児参加を阻みます。男女ともにワークライフバランスは必要ではないかという意見がありました。

また、社会体制として男女平等社会というのが根付きつつあるとは思いますが

が、意識の浸透までには至っていないのではないかという意見や、女性活躍の推進と叫ばれている中で家庭での男性の活躍推進も同時展開をすればよいのではないかという意見もありました。

さらに、個人の意識の変革や他者に望むこととして職場の環境や周囲の理解を深めることや、社会全体に対してはインフラ整備など環境面についても意見交換をすることができました。10年前では想像することもできなかった女性活躍推進に対する支援の風が吹いているのですが、結婚や出産といったライフイベントを経ても「がんばろう」と思える仕組みづくりや風土の醸成が不可欠だと思います。女性が本当に社会に出て活躍するために必要なことはどのようなものなのか。このような建設的な意見交換ができる場やワークショップの場、考えをお伝えできる場があるということはとても意味のあることだと考えております。企業側でも制度の整備は進んでおりまして、意識は徐々に進んでおりますが、企業でできることには限界があるかと思えます。

ワークショップではこれ以外にもたくさん意見は出ていたのですが、行政については、現場の女性が働きやすい、産みやすい、育てやすい、住みやすいと感じることができるような環境整備を期待しております。私からは以上となります。ありがとうございました。

苗洪さん

前橋工科大学3年の苗洪航と申します。よろしく願いいたします。昨年12月22日に前橋プラザ元気21で前橋工科大学から4名、群馬大学から5名、前橋国際大学から3名の合計12名で「学生の定着」をテーマに話し合いました。現在の大学を選んだ理由や、今後の就職先、前橋の魅力について自由に話し合う形で進めました。

卒業後の進路については、県内出身者からは「前橋がよい」「地元がよい」「混み合った東京に魅力を感じない」「いずれ戻ってくるのでまずは東京に行きたい」というように今住んでいるところに魅力を感じている学生もいました。

県外出身者も「群馬で就職したい」「地元よりも群馬の方が企業数は多いと思う」という意見がある一方で、「仕事の選択肢が多いため、東京をメインに考えたい。実家に帰る選択肢もゼロではない」という意見や「実家に帰って1人暮らしをしたい」という自分の地元に戻るという意見もありました。

次に前橋の魅力についてですが、「良くも悪くも何もない。これから作りだせる」という意見や、「まちなかに空きスペースがあり、学生でも気軽に借りられるため、市民1人1人のまちづくりに参加する割合が大きい」という意見や「スキーがすぐにできる環境にありつつ、まちなかでは雪が降らない」「いろいろなお祭りがあるが、地元しか知らない。もっとPRできれば良い」というように前橋には魅力はあるのにもかかわらず、上手く広まっていないという意見がありました。

その他の意見として交通の便などが議論になっていました。以上です。

大森委員

お世話になります。大森です。あわせて24名の方に集まっていただきワークショップを開催しました。女性とのワークショップではKJ法のようなラベル

ワークみたいなことをやりながら意見を集約しました。学生の皆さんとは自由討論みたいな形でやりました。本当に時間が足りないくらい多くの意見を出していただきました。

おふたりが出していない意見で私が感じたことを申し上げますと、若干水を差すような形にはなってしまうかと思いますが、本音のところでは、学生さん達は前橋に魅力を感じていることは間違いではないと思います。

しかし、どんなに魅力があったとしても人生の中で1回は前橋の外に出てみたいというところだと思います。例えどんなに魅力があったとしても外に出るんだというライフプランはあるのかなと思います。県外の方も「前橋だから来た」というよりは群馬大学、前橋工科大学があるからというように学ぶところが前橋にあったから来たということです。もう一つは「1回は地元から出たい」という話がありましたように前橋の魅力が高まったから前橋に定着をするというわけではなくて、長いスパンで見ていく必要があるのかなと思いました。そこでがっかりしてはいけないということです。

それから女性の皆さんとのワークショップですが、一番意見が出たところはやはり職場環境の整備というところだと思います。なかなか行政として入り込みづらい部分であるので総合戦略に盛り込むことが難しい部分はあるとは思いますが、意識を醸成していくという部分ではやっていかなければいけないと考えております。

また、女性だけのワークショップだったのですが、男性のワークライフバランスについてはよく意見が出ていたと思います。つまり、子育てをするのが女性の役割と固定化しないような環境を作っていくと結果として女性も男性もワークライフバランスを取りづらい環境になってしまうかと思っています。そのあたりに難しさを感じたところでございます。

この後の議論の中でお話できればと思いますが、前橋を一旦卒業する人達を追跡できるような仕組み、常に繋がっていられるような仕組みが必要だと思います。例えば前橋に帰りたいと思ったときにすぐ繋がることができるような、我々が常に情報を持っていられるような取り組みも必要なのかなと思いました。

女性の活躍については総合戦略にも反映をしていただいておりますし、企業にどのように働きかけを行っていくのかということだと思います。私がワークショップ発言者の行間を読んで申し上げるのですが、我々が注意をしなければいけないこととして、学生さんは前橋が嫌いだから出て行くというよりもライフプランとして出て行くということでした。出て行く人生も応援してあげるといいますか、「前橋を捨てていくのか」というような雰囲気を作らないようにして、また「前橋に戻りたい」と思わせることが大切だと思います。

それから県内出身者は前橋に魅力を感じているので県内に留まっていると感じました。大学に入る前の段階でどれだけ教育の部分や家庭教育の分野で子ども達と魅力を共有できるかがポイントだと思います。

女性のワークショップの中で参加された方は企業で働かれている方、お1人ですけれども子育てをしながら無職でいる方、働いている方でもお子さんがい

	<p>らっしゃる方、いらっしゃらない方など様々な人達がありました。今、時代の雰囲気子どもを産み育て、かつ、活躍もしなければならないというところで、例えば、現在働いていらっしゃらない方が「すみません。今は働いていないのですが」とまずエクスキューズを出されてから発言をされたり、お子さんがいらっしゃらない方で「すみません。私は子どもがいないのですが」とエクスキューズを出されてから発言をされているわけです。「(働いていなくて) (子どもがなくて) すみません」という発言者からの気持ちを読み取ってしまったのですが、それはその人達の今の生き方であって、それも尊重されるようにしていかないと働きながら産み育てることだけが素晴らしいということだけになってしまうと住みづらさを感じてしまうという可能性も出てしまうかと思えます。その部分は気を付けていかなければならないと思います。沢山の意見を事務局が記録していますので、活用してもらえばいいのではないかと思います。</p>
<p>曾我座長</p>	<p>ありがとうございました。改めてワークショップに参加していただいた方々ありがとうございました。そしてさらに取りまとめをしていただいた大森先生には感謝申し上げます。</p> <p>委員の皆様からご意見をいただく前に本部長であります、山本市長がお着きになりましたのでご挨拶をいただきたいと思えます。</p>
<p>山本市長</p>	<p>ありがとうございます。前橋版総合戦略につきましても今回のミーティングでより深まるものと考えております。少し煮詰まってきたように思えますし、国も頑張れと発破を掛けていただいているところではございます。皆さんのお知恵をお借りしていきたいと思えます。よろしく願いいたします。</p>
<p>曾我座長</p>	<p>ありがとうございました。では、議事に戻ります。先ほどのワークショップの報告を受けて何かご意見等はございますでしょうか。南委員さんから何かご自身の立場などからご発言があればお願いできればと思えます。</p>
<p>南委員</p>	<p>群馬銀行の南です。子育てと仕事の両立ということで以前から当行では産休・育休を設けております。その中で先ほどご意見として出ていましたとおり、短時間でも受け入れてくれるような保育所・託児所、(夏休みなど) 長期休暇での学童保育の一時利用、高学年の受け入れなどを要望としてあると私も伺っております。また、小さいお子さんは手足口病やはしか、水ぼうそうなど様々な病気になると思いますが、そのときに「早く帰らせてください」と申し訳なさそうに私のところに来ることがあります。このような緊急の場合に対応できる病児施設の充実が行政面において緊急性を要するのではないかと思います。</p> <p>また、産休・育休制度を利用することに対して周囲の理解がもっと必要であると思えます。「1人目で産休・育休制度を利用することは構わないが、2人目も利用するのか。」というような雰囲気が出てしまうようにならないためにも企業内でしっかりと制度を整備し、また、従業員も理解を示すような環境づくりも必要なのではないかと感じます。</p>

曾我座長	<p>突然のご指名にも関わらず、ありがとうございます。続きましてハローワーク前橋の松本委員さんをお願いできればと思います。</p>
松本委員	<p>お世話になります。ハローワーク前橋の松本です。子育てと仕事の両立について先ほどご発言がありましたので、私からは学生の定着についてお話させていただきます。</p> <p>大森委員からお話がありましたとおり、前橋を出て行ったとしてもまた戻って来たくするような雰囲気づくりが必要になってくるのだと思います。学生の定着に向けて大事になるのは二本柱になるかだと思います。一つ目は、地元の学校に進学し、地元の企業に就職を希望する生徒さんがいますので、その希望に応えるようなシーンを作っていかなければならないと思います。この点については、ハローワークでも推進しているところでもあります。</p> <p>もう一つは、群馬や前橋にいたことが嫌で東京に出て行くということではなく、地元を離れて生活してみたいという生徒さんもいるとのことですから、群馬や前橋に戻ってきてもらうようなフォローを行政が積極的に支援していくことが重要であるかだと思います。私からは以上です。</p>
曾我座長	<p>どうもありがとうございました。他にご発言をご希望される方は挙手をお願いできればと思います。</p>
深津委員	<p>先ほどのお話の続きにはなりますが、大森先生がおっしゃったように出て行く応援も必要なのかなと思いました。東京に送り出し、色々チャレンジして自分を磨いてもらうような人材育成の観点も必要なのかなという気もいたします。一回り大きくなって地元に戻ってきてもらえれば良いと思いますので、方策を模索していくということになるのではないのでしょうか。</p>
曾我座長	<p>どうもありがとうございました。この内容につきましては一旦終わらせていただきたいと思います。なお、ワークショップ参加者につきましては、このまま出席していただけるとのことですので、当事者としてのご意見も議事の中でご発言をいただければと思います。</p> <p>続きまして、前橋総合戦略のことについて事務局より説明をお願いいたします。</p>
谷内田政策推進課長	<p>政策推進課長の谷内田です。よろしくお願いたします。それでは、前橋版総合戦略の当初案がようやくできましたので説明させていただきます。</p> <p>まず資料2をご覧ください。前回は人口ビジョンを提示させていただきまして今回は、総合戦略となっております。</p> <p>資料3は前橋版人口ビジョンの修正資料となっております。人口ビジョンの記載の中で「2012. 4. 1～2013. 3. 31」は2012年度にも関わらず、2013年度と記載がされておりましたので、その差し替えとなっております。後日、最終版の</p>

人口ビジョンをお渡ししたいと思います。

本日、説明で使用いたしますのは資料4となります。資料5は総合戦略の体系図となっております。以上の資料を使いながら、ご説明させていただきます。なお、総合戦略につきましては事業が42ございます。細かく説明してしまいますと、意見交換の時間が無くなってしまいます。私の方からは乱雑に説明してしまうことになるかとは思いますが、ご了承ください。座長とも相談をさせていただきましたが、次回の有識者会議では、皆様のご意見を踏まえた上で各事業について説明をさせていただきます。

それでは、資料4の1ページをご覧ください。こちらにつきましては、総合戦略の基本的な考え方について記載がされております。総合戦略では、人口ビジョンの分析から導かれた基本目標の達成に向けて、重要業績指標（KPI）を設定するとともに、「選択と集中」、「地域特性の活用」、「官民連携」という3つのコンセプトのもと、計画期間は5年間（平成27年～31年度まで）であることを記載させていただきました。それでは、資料5をご覧ください。前回の有識者会議で使用した人口ビジョンの内容が基本目標に記載しております。国立社会保障・人口問題研究所（社人研）のシミュレーションのままで行きますと、出生率は1.36、1.37になると言われております。基本目標としまして、①若者（18-34歳、特に女性）の結婚・出産・子育ての希望をかなえるとしています。前橋でアンケートから取りました市民の希望出生率1.82を2030年までにはかなえ、人口が増えも減りもしない人口置換水準である2.07を2040年までにはかなえるとしています。このままの状態ですと2025年から2030年に掛けて400人ほど人口減少すると言われているものを2030年でプラス・マイナスゼロにし、2050年までに20歳から24歳が100人市内に転入してくるよう目標を立てました。2040年に28万人、2060年に22万人になるところを2040年に30万人、2060年に26万5千人をかなえることを目標としております。ここまでが前回の人口ビジョンでございました。この目標に基づく戦略が本日説明をさせていただきます。

それでは1ページ、2ページ目になりますが前回説明できていなかった部分を中心に説明をさせていただきます。5年度の平成31年度の目標値も追加させていただきました。先ほどの目標を達成するための途中目標となりますが、2019年までに合計特殊出生率1.52、市外転出超過数をマイナス118人に抑えるということを5年後の目標として追加させていただきました。コンセプトにつきましては先ほど申し上げたとおりです。先ほど大森先生がお話をいただいた「長いライフスタイルの中で・・・」という部分について持続性のある事業となっていることを説明させていただきます。2ページ目ですが、前回、大森委員さんから「女性の社会進出はマイナス要因ではない」というご指摘がございましたので、修正をさせていただきました。

3ページ目、4ページ目ですが、前橋の強みの部分を記載させていただきました。3ページ目の健康・医療の強みの中に女性の健康寿命が記載されておりますが、群馬県の女性の健康寿命は全国で2位となっております。ちなみに男性は10位となっております。こちらについても新たに追加をさせていただきます。

した。

5ページになりますが、こちらが総合戦略の体系図となっております。資料5が拡大版となっておりますので、こちらをご覧ください。人口ビジョンの中で理念として「子どもたちの元気な声が聞こえる ずっと住みたい生涯活躍のまち～健康医療都市まえばし～」がございます。基本目標については先ほど説明をさせていただいたとおりです。基本目標をかなえるために優先課題を4つに絞らせていただきました。「1 未婚率の上昇」「2 夫婦間の出生数の減少」「3 若者の総数の減少」「4 要介護等認定者率の上昇」でございます。解決に向けた方向性として1番から12番までにまとめております。解決に向けた方向性をつくり、前橋の強みと掛け合わせて取組んでまいります。

また、今日説明をさせていただく課題の解決として1番から42番までの事業を作りました。この体系図に基づき、説明をさせていただきますが、資料4の6ページ目をご覧ください。こちらは前橋版総合戦略のあり方について記載がされておりますが、前橋として10のシンボル事業を挙げたいと思っております。人口減少・超高齢化社会という危機感を前により良い社会を作るんだということと、それから人口減少問題の克服や東京一極集中の是正を解決する全国モデルを創る、それが日本再生の魁となる前橋市を創るために「さきがけ10」として10のシンボル事業を挙げたいと考えております。こちらはまだ議論が出ている部分ではございませんので、暫定版とさせていただきます。今回の有識者会議ではここが議論の中心になるのではないかと事務局では考えております。

7ページ目をご覧ください。ここからが、各施策・各事業との関連になります。課題・施策・事業についてお時間をいただき説明をさせていただきます。人口ビジョンで示した2つの基本目標と4つの優先課題と踏まえ、解決に向けた方向性として、今後、重点的に取組む12事業（42事業）を提示させていただきます。基本目標1をかなえるために優先課題「1 未婚率の上昇」を解決するための施策として「施策①出会いの機会の応援」でございます。「施策②安定的な雇用と収入の確保」です。

「出会いの機会の応援」についてですが、市民の意識調査によりますと若年女性（20歳-34歳）の85.1%が「将来結婚したい」と考えております。また、結婚に向けて取り組んだことのあるものについては「特になし」（56.6%）と多くの割合を示しております。このように若者の希望実現に向け、結婚への障壁を把握し、潜在的ニーズを具現化する新たな結婚支援のあり方を創出し、出会いを応援するための事業として「No.1 若年男女の結婚への壁打破」「No.2 新たな出会いにつながる学び・活動の場の創出」を挙げておりました。事業の詳細は後ほど説明をさせていただきます。

「施策②安定的な雇用と収入の確保」についてですが、未婚率の上昇ということで多様性のあるライフスタイルが重要になってきます。未婚率の上昇を食い止めるために施策②を考えた場合、安定的な雇用と収入の確保となります。経済的な不安を解消し、多くの若者が躊躇なく結婚に踏み出せることはもちろんですが、出産についても同様の認識でおりまして、事業として「No.3 ジョ

ブセンターまえばしによる包括的就職支援」、「No. 4 子育てママの再就職支援」、「No. 5 事業所内保育施設の設置支援」と挙げさせていただきました。No. 3 につきましましては、新たに作るジョブセンターまえばしによる包括的な就職支援について述べております。No. 4 については、先ほど話がありましたが、子育てがメリットとなる働き方を作らなければ、未婚率の上昇が減らないのではないかとこの考えから子育てママの再就職支援に取り組みます。

それから働いている方が自分の会社の中に保育施設があれば、保育園に預けられないというリスクが無くなるわけですから、事業所内保育施設の設置支援を施策②の事業として位置付けています。

8 ページ目は夫婦間の出生数の減少についてです。一つは不妊・不育支援です。不妊についてはもちろん支援が必要ですが、不育については、妊娠はしたけれども子どもが育たないという部分がありますので、そういった支援をするということになります。また、次の世代を担う若者へ妊娠・出産に対する正しい知識を普及・啓発することが大切であると考えまして、「No. 6 不妊・不育治療の支援」、「No. 7 妊娠・出産に対する正しい知識の普及・啓発」の事業となります。

施策④については、2人目の壁打破です。これは非常に大きな問題だと思っております。市民の意識調査によれば、2人以上の子どもを産んでよかったと思うこととして「家族が増え、にぎやかになった」と感じる方が約8割いる一方、8割の方が「2人目の壁があると思う」と回答をしております。その理由として「子育てにかかる費用負担が大きい」とか「時間に追われている」、「仕事の両立が難しい」とのことですので、これらに対応するため、事業の組み立てをしました。「No. 8 子育て世代包括支援センターの充実」につきましましては、妊娠・子育て・出産をワンストップで受けられることを市の中で作ろうと考えております。

「No. 9 産後ケア」、「No. 10 病児・病後児保育の充実」についてです。現在、前橋では病児・病後児保育が受けられる場所は1か所あるのですが、先ほどの山出さんの話でありましたが、体温が37度を超えたくらい、微熱があるくらいでは保育園は預かってくれないとのことでした。そうすると働いているお母さんがどこに預ければいいのかということになります。祖父母が近くで面倒を見ることができれば良いですが、それができなくなると非常に大変なことになります。これはかなり現実的な問題だと感じておりますので、病児・病後児保育施設を更に充実させていきたいと考えております。「No. 11 放課後児童クラブの拡充」、「No. 12 地域における子育て支援の充実」、「No. 13 近居・三世帯同居支援」、「No. 14 社会全体で子育てを応援する風土づくり」を出させていただきました。

9 ページ目がこどもの育ちを支える教育です。魅力ある教育・子育てを進めるために、重視をするものとしまして、市民協働の推進、親育ち・子育てのための幼児教育の充実、全国に誇れる魅力ある学校教育の推進となっております。こどもの時代に前橋が良かったと思っただけなければ、長いライフスタイルの中で前橋に戻ってもらうことができないと考えております。そのためにも

ずは教育の部分をしっかりするべきではないかということで、子どもの育ちを支える教育という部分で記載をさせていただきました。子どもたちが、地域を知り、地域の人と関わる「ふるさと教育」を推進するとともに、地域における学習活動や体験活動を通じて社会性や人間性を育むために「No. 15 地域でいきいき学びの場」と考えております。今、Mチェンジという形で生活保護や生活困窮世帯の子どもに対しては高校受験をするための学習支援をしております。その取り組みを全中学生に広げて、平日は勉強、週末はふるさと学習というようなことを地域でいきいき学びの場でやりたいと考えております。実習する場として「No. 16 赤城山ろく里山学校」であるとか「No. 17 少人数学級の推進」に取り組むことにより、先生の負担感をなるべく少なくすることによって先生と子どもが向き合う時間を増やすということで教育が変わっていくのではないかと考えております。また、前橋の売りである「No. 18 ICT教育の推進」を事業として挙げております。

次に10ページ目から基本目標2の「若者の定着と高齢者の活躍」により、地域の活力を維持するという基本目標の優先課題である「3 若者の総数の減少」に対応するものですが、こちらについては、市内高等教育機関の魅力向上についてです。もちろん、現在、前橋にある高等教育機関は魅力があるものと認識はしておりますが、今まで以上に魅力があり、就職を見据えた教育の底上げをお願いできたらと考えております。その事業として「No. 19 大学等の活性化」と挙げさせていただきました。

施策⑦として市内大学生等の定着です。調査によると、市内大学等在学生の83.6%が前橋市外となっております。この前橋市外の方がせっかく前橋に来ております。通学校卒業後の勤務先として、78.3%が前橋市外を希望しています。このような外から来た方に「前橋にはこんなに素晴らしいところがある」「前橋にはこんなに素晴らしい企業がある」ということを認識してもらうことが、人口減少に対する施策となると考えております。事業として、「No. 20 学生の定着促進」、「No. 21 U I J ターンの奨励」、再掲となりますが、「ジョブセンターまえばし」による包括的就職支援を入れさせていただいております。

11ページは、施策⑧となります。ふるさと就職を促す魅力ある仕事づくりというところで、大森先生をはじめ、他の委員の方々がおっしゃるように「出ていってしまうのは仕方がない」が、「前橋に戻ってきてもらうタイミングを考えてもらうことは大切だ」ということで、施策⑧、⑨を出させていただきました。

市民意識調査によりますと、市内の高校生に対して「大学等卒業後、前橋市内で就職したいと思うか」聞いたところ、「思わない」が73.0%となっております。学生が一度、東京に出てみたいと考えるのは自然の理かなと思うことがあります。

しかし、そのように思っている若者が市外に出た後でも「また、前橋に戻ってきたい」と思えるような仕事を作ることが大事です。そのためには、東京みたいに大企業が来るということはないと思います。しかし、起業という部分については、前橋は「ベンチャーヘブン」ということを掲げて取り組んでおりますので、「No. 22 ベンチャーヘブンまえばしの実現」であるとか、「No. 23 市

内企業の人材育成支援」ということで企業自らが人材を持ってくることに対して支援を行っていくこともあります。また、「No. 24 本社機能・バックアップ機能誘致」をすることも取り組んでまいります。また、農業分野において現在は、6次産業化を進めておりますので、単純に農業だけではなくて、商業と工業と結びつく「No. 25 農商工連携による就職支援」や「No. 26 農業の新規参入支援」、「No. 27 エネルギーの地産地消」など新しい前橋のしごとづくりをこの中で進めていきたいと考えております。

それから施策⑨においては、これから前橋の魅力が上がらなければならない、前橋は選択肢の一つに入らなければいけないということで、東京圏からのアクセスに恵まれていることを考慮し、交流人口増加による地域の活性化ということで2020年につくる「No. 28 魅力発信拠点となる新たな道の駅」、「No. 29 赤城山ツーリズム」、「No. 30 スポーツコミッション」、「No. 31 まちなか文化・芸術・歴史空間の創生」、花燃ゆで開いたまえばしの魅力がその後文化として続くもの、それから「No. 32 留学生の定着促進」と進めていきたいと考えております。

ここでちょっと述べさせていただきますが、今前橋には567人の留学生がいらっしゃいます。その留学生の中で、本当は残っていたいにもかかわらず半数は帰国してしまっている状況です。半数は残っても大多数は市外に就職してしまっています。これを市内企業と留学生をどうマッチングさせるかというのが非常に事業としてはよい点と思い事業に上げさせていただきました。

次に移住定住人口の増加です。昔前橋にいた・いないにかかわらず住民移住の促進です。教育、医療など、前橋の強みを活かして家族移住を促進します。そのほか、「No. 34 スローシティ・スローライフの推進」、「No. 35 地域おこし協力隊の活用」、「No. 36 民間共創の推進」ということで、市民力をあげ、前橋のスローシティさを売りにしていこうと考えております。

最後12ページ目が、要介護認定の上昇の課題への対応です。施策11が「生涯活躍のまちづくり」ということで、今出ている「No. 37 健康寿命の延伸」、それから「No. 38 大学退職教員等の知識や技術の継承」です。これは、前橋市外のところで企業と連携している退職された大学の先生、ポストドクターなどの「知の継承」を、前橋を中心に出来ないか、と考えています。このほか、「No. 39 ICTを活用した健康づくり」、「No. 40 前橋版CCRCの推進」という形になります。

最後共通で考えておりますのが、前橋市全体の町が良くなることを目的に、人口減社会においても地域の活力が維持され、子どもからお年寄りまで安心して暮らせるまちづくりということで、「No. 41 都市のコンパクト化」や「No. 42 交通ネットワーク再編」を考えております。

以上が総合戦略の12の施策となっています。先に座長さんとも相談させていただきましたが、私がずっと説明させていただくのは時間がもったいないので、一つだけ説明させていただいて、あとは皆さまに1月末までに見ていただき、委員のみなさまに意見をまとめていただいて、2月にやる有識者会議ではその内容をもとに一つ一つの細かい事業について話し合いができればと思っていま

す。次回は申し訳有りませんが、3時間を予定させていただきたいと思っています。そこでは一つ一つをきちんと説明させていただきたいと思っています。

それでは1つの例だけ説明させていただきたいと思います。13ページをご覧ください。最終的な事業についてはこのような形でまとめさせていただきました。「若年男女の結婚への壁打破」という事業について、目的と手段と将来構想という形で整理しました。目的とすると若年女性、若年女性(20-34歳)の結婚希望は85.1%と高い。でも結婚したいという思いを持ちながらも具体的な行動に至っていない現状を改善することがあります。それを改善する事業手段としては、若年男女の結婚への障壁を打破するアクションプランを策定します。現状の障壁を把握した上でそれを打破する、というものです。

将来構想としては、結婚したいと思いつつできない人が結婚に向けてのアプローチを簡単にするということが、もう一つはこれを市がやるのではなく、地域や企業のみなさんなどがやるのをやるのが目的です。今回の総合戦略で大切なのが「産学官言金労」とどう連携するかになります。

工程表についてですがアクションに向けて、28年度には市民のみなさんに参加してもらってワークショップをし、29年度から31年度までに提言アクションを実施する予定です。KPIについては、現在の未婚率25~29歳の男69.1%女58.9%、30~34歳男45.6%女32.4%となっておりますが、それを「減少」させます。現在はあいまいな形で申し訳ありませんが、最後完成までには数値を入れたいと考えております。

ページの最後には参考データとなるもの、総合戦略のなかで連動するもの、担当所属に関して記載しております。42の事業についてもこのように形で作らせていただきたいと思いますと考えております。乱雑ですが説明は以上となります。

曾我座長

ではさっそくご意見をいただきたいと思います。ワークショップに参加していただいた5人の方がいらっしゃいます。これらの事業に直接関係する方です。できれば結婚出産子育て、学生の定着について、おのおの2分ずつくらいでご意見いただければと思います。

さきほどご意見いただかなかった方から町田さん、市川さん、高野さん、その後発表していただいた山出さん、苗洪さんの順番に、どのようなことでも結構ですので、お願いします。

町田さん

群馬ヤクルト販売の町田と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。私は現在4歳の娘がおります。当社は「健康快適応援企業、子育て応援企業」を目指しております。本社のほかに32の各地域にサービスセンターがありますが、そのうち18の支店に企業内託児所を併設しております。みなさんご存知のヤクルトスタッフが子ども預けながら仕事ができるという、女性にとってとてもありがたい環境です。私も母親になって感謝しております。

実はヤクルトスタッフは社員ではなく個人事業主という扱いなのですが、私は総合職の社員として入社して、社内で初めて託児を使わせていただきました。それまでは長時間労働等で女性の社会進出の機会があまりなかったということ

ですが、上司の理解があった上で、託児を利用させていただき、短時間勤務で職につかせていただいたというのは、子どもを持つ親の身として本当に感謝しています。ぜひ、地域でも他の企業の方も女性の力を広げていける場面、子育て世帯向けの子どもの施設を増やしていけたら、前橋により人が戻ってくるのではないかと思います。

先週金曜に保育士の会議が行われた際に先生からうれしかった話について2つ報告を受けました。この会議での話につながるかと思いますので、お話しさせていただきます。1つ目は、何十年も前に託児を利用していた子が「先生のような保育士になりたい」と、東京の大学を卒業後、群馬に戻ってきて、この4月から同じ保育士として勤務することが決まったという話です。

もう一つは、昔託児に預かっていた子どもが大きくなって母親になって、子育てと仕事を両立したいと思って、最初にうちの会社を選んだということです。1月から自分も働きたいということで自社に入ったということです。

この2つの話は今の前橋市で考えている話につながるのではないかと思います。そういった機会を増やしていただいて、環境整備をすることで、より前橋市の女性が輝いていけるのではないかと感じました。

市川さん

前橋市役所産業政策課で嘱託職員をしております市川と申します。よろしくお願ひします。

私は結婚してから数年子どもがいなかったのですが、夫婦共働きで働いてきましたが、子どもが生まれてからはそれまでと生活がガラッと変わってしまいました。それまでは正社員で働いていましたが、働けなくなってしまいました。時間的に短く働ける場所を探し、子どもが現在4歳ですが、5か月の頃から保育園に預けて働いています。子どもが中心になってしまうので、熱を出したときに誰が迎えに行くかを考えながら働いています。主人が仕事で出張等もあるため、子どもが熱を出したときなどは、まずは私が迎えに行っています。自分も仕事をしていて、毎日休めるわけではないので、私が迎えに行けないときは主人にお願いして2人で調整しながら働いています。

最初は私立の保育園に預けていました。そのときは職場に近い方が子どもを迎えにいきやすいと思って預けていました。その後、自宅と職場が40分くらいと離れていたため、将来小学校のことを考えると自宅に近いところのほうがよいと思い、3歳になって地元の公立保育所に預けました。子どもも大きくなってきたので、これからは正社員を目指して働きたいと思っています。ただ、正式に働くとなるとフルタイムなので勤務時間も長くなり、8時半からの勤務だと保育所は早朝7時45分からでも預けるのは難しい状況です。公立だと7時から預けられたりするところもあります。そのあたりについて、公立と私立で制度が統一されているとありがたいと思いました。

あと一番子どもが熱を出したときが母親として心配です。普段から熱を測っていますが、平均でも37度くらいと体温が高めなので、すぐ37度5分になってしまいます。保育園によっては看護師がいるところもあります。看護師がいてくれたら、さすがに38度あるとかわいそうだと思いますが、37度6分や37

	<p>度7分くらいであれば本人も元気のため、そういうときにみてもらえたらありがたいと思いました。以上です。</p> <p>共愛学園前橋国際大学3年の高野里沙と申します。さきほど、Mチェンジ教室をやっていると話がありました。私がボランティアとして参加していたので、その話をしたいと思います。</p> <p>公民館を借りて夜の7時から9時まで子どもたちと勉強をします。子どもと1対1で勉強するだけでなく、1日にあった出来事を直接子どもが楽しそうに話してくれます。そういうことを学校ではなく、公民館でやることで、またボランティアと話すことによって子どもが楽しく過ごせると思うので、とても良いと思います。現在市内9箇所にあるのですが、中学校の近くにもっとできれば、もっとたくさんの子どもが参加できると思います。</p> <p>昨日市役所の人に来て、学生向けに自分磨きの講座「シンデレラ・プリンス講座」の案内をしてくださいました。その際にプリントを配布していただき、学生のみんなで見ていたのですが、その内容が女子向けだとすっぴん講座やヨガなどの体験でした。身近な内容だったので、「ぜひ行きたいよね」、という声がたくさんありました。学生からみたときに今からでも始めることができるようなものだと参加してみたいという話ができました。以上です。</p>
<p>曾我座長</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>山出さん</p>	<p>損保ジャパン 山出と申します。弊社の実情としてダイバーシティを推進している会社でもあるのですが、社内で産休・育休はもちろん、男性向けのセミナーでもイクボスを拡充しているような状況です。</p> <p>弊社は50号と17号の交差したビルにあり、その中でも30代40代の未婚の女性が多いというのは実感しています。私は、結婚して転職して今の会社におりますが、子どもはおりません。機会があればと思いつつ、仕事の充実と今の生活に満足しており、主人と相談しつつ思っているところです。ただ、今、自分もフルで働いている状況の身で思うのは、仕事から帰って炊事・洗濯などいろいろな身の回りのことをやっている中で、子供ができ、育児が増えたらどうなるのか、ということです。同じように夫婦で働いている中で、夫婦間の協力なくして、今の生活はありえません。そういう意味で主人には感謝しています。</p> <p>今日私の部署でも子どもが熱を出して入社後すぐ退社したということがありました。また、前橋ではないのですが、太田で預け先がなく、復帰時期を延ばしてもらいたいという話がありました。</p> <p>自分の今の業務に通じる場所がありますが、いろんな生き方・働き方がある中で、制度もいろいろありますが、それを取りやすい環境を社内で広げていく必要性を感じています。</p>
<p>苗浜さん</p>	<p>前橋工科大の苗浜です。僕は広島県出身ですが、将来的には広島県に帰りたい</p>

<p>曾我座長</p>	<p>いと思っています。なぜかというと地元には両親がいて友達がいる、小さいころの体験があるからです。子どもの頃にどれだけいい経験をしているかは、地元に戻りたい気持ちを生むと思います。小さい頃からの教育が大切だと思います。両親の生活の心配を考えると、老後の生活の保障がしっかりしていると地元に戻りやすいかなと思います。</p> <p>自分は広島県でお好み焼きを食べて育ってきました。地元で美味しい食べ物がある、それがあっても広島に戻りたいと思います。前橋にもこれは負けない、美味しいものがあるとなれば、地元愛が生まれると思います。</p> <p>ワークショップのみなさんにお話をいただきました。実体験からお話をいただき参考になると思います。</p> <p>それではお待たせいたしました。このあとは順次委員のみなさんに発言していただきたいと思います。名簿の順にお願いしたいと思います。順だと、商工会議所で私となりますが、商工会議所からは私の代わりに村井がきております。最後に発言させていただくとして、まずは横堀委員さんをお願いしたいと思います。</p>
<p>横堀委員</p>	<p>横堀と申します。よろしくお願ひいたします。私の組織でも女性に対して手厚い補助制度が構築されている状況にあります。ただ組織としてのありかた、こういう言い方をすると語弊があるかもしれませんが、同じ女性同士でも環境の違いもあるかもしれないのですが、2人目ができたときに「え？またですか」とか、3人目だと「何人産むつもり？」などと男性の耳にはなかなか入ってこないようなやり取りがあるように聞いております。同じ女性同士の中でもそのような気遣いや配慮が必要なのではないかと感じます。それは組織としてどう対応するか、男女雇用機会均等法ではないですが、女性のパワーをいかにいかせるかという意味で考えていったらどうかと思います。</p>
<p>曾我座長</p>	<p>どうもありがとうございました。ちょっと話がそれてしまいました。私の説明が悪い部分があり申し訳ありません。ご意見をいただく部分については6ページにあります、10のシンボル事業すべてについてすべてでもよいですし、ご自分の専門分野についてでもよいので、これからお話いただく委員の皆様にはどうぞ好きな分野での発言をお願いします。</p> <p>では続きまして黒岩委員さんお願いします。</p>
<p>黒岩委員</p>	<p>得意な分野ではないですが、交通分野からの視点でお話をさせていただきます。コンパクトシティについてですが、地元関係者の意見もあり、また様々な考えもあると思いますが、まちづくりのビジョンがまとまらないと、時間だけが過ぎ、結局まちが衰退していくばかりでないかと思います。まちづくりのビジョンを持って、多少「強力」に進めていく必要もあると思います。皆さんの意見を全部聞いてまとめていると、時だけが瞬く間に経ってしまい、活性化が</p>

進まなくなることが危惧するところであります。

それからまちの形をどうするかという課題もあります。前橋駅に降り立ったときの雰囲気です。例えば長野県長野市の駅を降りると、駅から町並みが整備されて、官庁街とオフィス街が並び、形がきちっとしています。残念ながら前橋駅はそのようになっておらず、市役所周辺も歯抜け状態が目につきます。ここをどうするか、まちをどうするかを真っ先に考えていけないのではないかと痛感します。少々強力なリーダーシップが必要ではないかと思いますが、市長さん以下が、「まちをこうするんだ」という強い思いで強力にやっていていただきたいと思います。大勢の人のご意見は貴重ですが、街づくりのために選択と集中で頑張ってもらいたいと思います。

星委員

私からは2点あります。一つは、結婚・出産・育児ということですが、私はこちらに来て2人子どもをもうけました。そして育児に参加できたと思っています。それはどうしてかといいますと、自分でコントロールしながら仕事ができ、それと仕事場と自宅が近かったという理由があります。

先ほど長時間労働の話がありましたが、むしろ働き方をどうするか、そこを公共・行政が支援できれば、かなり男の人でも育児に参加できると思います。ですから時間だけの問題ではなく、システムの問題を考える必要があると思います。先ほどコンパクトシティの話がありましたが、仕事をするとところと生活するところをどういう風に結び付けていくのか。公共的なシステムがもう少し整備されれば、非常にやりやすくなるのではないかと実体験から感じました。

もう一つは教育機関にありますので、私は工学系ですから物をつくるというところがポイントかと思っています。就職先の紹介の話がありましたが、就職先の話よりも「前橋がこういうモノをまちとして作り出しているんだ」ということが具体的に見えてくると、前橋に働きたい若者が増えるのではないかと感じます。私の大学は工学系ですが、農業から工学までいろいろありますので、学生達に前橋の生み出しているモノが具体的に見えると、就職というより前橋での具体的な暮らしに対して働きかけをしやすいいと思います。

先ほど東京の方が魅力的に思う、なんでもできるという話がありました。若者は何も知らなければ東京を見てしまいます。「身近にあるんだ」ということが見えるようなかたちにする。行政、私たち、企業が一体になると、それができるのではないかと感じました。

曾我座長

ありがとうございました。続きまして窪田委員さんお願いします。

窪田委員

群馬大の窪田です。3点ほどお話しします。一つは31ページにあります大学等の活性化に関係するのですが、ここを見ますと、市内の高等教育機関に特に重点を置いているような感じがします。例えば群馬大学で言いますと、前橋だけでなく桐生にも太田にもキャンパスがあります。前橋だけではなくて、前橋を中心にする形で群馬県全体の高等教育機関、高等専門学校のネットワークをつくる方がいいのではないかと感じました。

もう一つは子育て・出産というところですが、行政がどんなことができるかという説明についてはすごく分かるのですが、行政が地域の中のポテンシャルを引き出すような仕組みをつくっていくという考えも重要だと思います。小さい子どもの世話をしたいと考える高齢者はたくさんいます。そういう方をどれだけまとめられるか。他の機関では難しいですが、行政であればまとめる力があるのではないかと思います。

もう一つは前橋でどんなことができるのか。特に産業です。前橋が主体になって新しい分野を自分たちでつくっていくと続かないと思います。企業誘致が先にくるのは分かるのですが、どうしても企業を待つという受身の議論になってしまいます。どういう分野の産業を、前橋の10年20年という期間で重点的に育てていくのかというのを考えていく必要があると思います。

曾我座長

続いて、大森委員お願いします。

大森委員

優先課題に対する解決に向けた方向性のところで言いますと「二人目の壁の打破」と「子どもの育ち」「定着」に関しまして意見を述べさせていただきます。細かい事業に関しては意見を後で出させていただきますが、一つご参考で、少し古いのですが2009年の厚生労働省の調査で、第二子の出生状況についての調査を紹介します。子供がいる夫婦で、夫の休日の家事育児時間別に見た第二子の出生状況というものでして、夫が休日する家事育児が2時間未満というカップルからは、二人目が生まれたのは23%。夫が家事育児6～8時間やっていると54%のカップルから二人目が生まれている。倍ですね。先ほどのワークショップの話にもありましたが、この問題に対して行政としてどう関わっていけばいいのかというのは、長年考えていますが、これだという答えは見つかっておりません。しかし、男性の家事育児時間が長い国ほど出生率が高くなっているということをあわせて考えると、ここの書きっぷりがちょっと薄いような感じがします。

また「子どもの育ち」というところでは、前工大の彼が言っていたことの繰り返しになりますが、実は今、県全体でも、「放課後に誰と遊ぶか・過ごすか」というアンケートの質問に対し、「遊ばない」、「家族」と答えている子供が年々増えているという結果があります。「地元に戻りたい」という気持ちのきっかけになるのは、「(地元)に友達がいる」というのが非常に大きなポイントになると思います。ですから、今回のこのプランの中で(このことについて)書いていただいたのは非常にいい方向になるのではないのでしょうか。大人が放課後の子どものネットワークを意図的に作ってあげないといけない時代に入ってきていますから、非常に賛成するところです。

さきほどワークショップで発表した本学の生徒は、小・中・高と前橋、大学も前橋で将来は前橋に勤めたい、と思っている子です。その理由として「小中学校時代が良かった」ということも聞いています。ですから、この視点が非常に重要ななと思います。

「定着」のところで、県内・市内の大学に入ってもらいたいということで、

我々も一生懸命努力していきますし、一緒に魅力のPRなどをやっていけるとありがたいと思っています。しかし、一方で前橋から出るという子に、戻ってきてもらうという場合、UIJターン、Gターンクラブとの連携やCOC+も絡みながらやっていけると思いますが、市内の高校を卒業した皆さんが使えるスマホアプリの開発なども考えられます。こちらから市の情報を流したり、アンケートに使えたりするようなアプリです。大学を卒業した皆さんに卒業証書と一緒にQRコードを配布するなどで、アクセスしてもらおう。これは小さいスキーム例ですが、太田の市立高校が先行型で200万円かけてアプリを作って、同校の卒業生たちだけに配るといった事業を始めています。小さいスキームですが、将来的にデータをもらうという意味ではすごく意味があると思っています。前橋市内から出て行くという進路は決して否定しないが、「つながっていようね」ということが大切です。卒業してしまうと、大学・高校も動向を把握できません。ですから、つながろうという事業があるといいと思います。定着化を図る事業の中の一部としてできたらいいのかなと思います。

曾我座長

続きまして松本委員さんお願いします。

松本委員

ハローワーク前橋の松本です。結婚と出産のところですが、資料にも「発展的な雇用と収入の確保」という項目がございます。その中に結婚の数は年収によって大きく左右されるという資料がございますが、国も非正規労働者の正社員化への転換というところに非常に力を入れています。年収が正社員と非正規労働者との間では、生涯賃金で見ると大きいという現状があります。若い頃で見るとあまり変わらないのですが、年齢が上がってくると差が広がり、生涯賃金では大きく差が開いてしまうのです。有配偶率は一般的に30歳代前半で50%に上がりますが、非正規労働者はそれが上がってきません。多様な勤め方がありますので、それぞれの意向に沿うことは重要ですが、意向に沿わずに非正規労働者になっている方も多くいらっしゃいます。そういう方へのフォローも大切ですし、今後のジョブセンターまえばしの事業にも関わってくるかと思っています。

曾我座長

続きまして、深津委員さんお願いします

深津委員

前橋行政県税事務所の深津です。県でも総合計画・戦略をつくってございまして、前橋地域の今後の方策を考えるために、前橋地域で懇談会を開きました。その中で委員さんから出た意見で、特に印象に残っているものを紹介します。一つは、地域の歴史や文化が意外と知られていない。自慢できるものが少ない。おいしい食べ物などが少ない。そんな意見がございました。そういった物がなくて東京に出たときに帰ってこなくなってしまうという意見です。地域、教育、郷土を愛する心を育てていくことが大切だと思いますし、苗洪さんが「子どもの頃の体験が大切」と話してくれましたが、やはり体験しながら学んでいくことが重要かと考えます。そして体験は交流につながって発展していくので

はないかと思えます。

二つ目の意見として、前橋に限った話ではないですが、人間関係が希薄化しているというのがありました。若者が社会性を養っていく機会が減少しているということです。それにはやはり、交流が大切なのかなと思えます。地域だとか社会だとか。その中で世代を超えた交流ができると良いと思えますので、交流の場を確保し提供していくことが大切だというのが印象に残っている意見です。

今回 10 のシンボル事業をざっとタイトルを見せていただいて、前橋らしい事業が並んだなと感想を持っております。この中でも記載がありますが、体験・交流を深めていけるといいのかなと感じました。

曾我座長

続きまして、南委員さんお願いします

南委員

将来的な人口を増やす、就職・雇用を増やすという観点から、34 ページの 22 番になりますが、ベンチャーへブンまえばしの実現があると思えます。昨年 12 月に、市長さんや商工会議所さんの協力で前橋市創業センターを開設しまして、ベンチャー、起業を起こす、商売をやりたい、会社をつくりたいというまさに卵から出たての企業を後押しするという取り組みが始まったわけです。部屋数も 10 程度ありますが、あつという間に埋まっているという状況です。

また、前橋発の企業、例えばカラオケの腰高さん、お豆腐の相模屋食料さん、JINS の田中さん、銀だこの社長さんの肝いりで群馬イノベーションアワードを 3 回やりまして、群馬県各市から学生さんをはじめとして、自分がやりたい案・企画をアピールして支援をするということも始まっています。

他にも群馬銀行のベンチャービジネス大賞ということで、学生さんから起業家さん、これはベンチャーだけではないですが、新業態の支援をするという取り組みもあります。要するに前橋の行政と前橋市の企業家、トップも含めて、いろいろなベンチャーの支援が始まって定着しつつあると思えます。こういったことが 3 年後 5 年後、全国のランドマークになり、さらに上場も可能性があります。

こうした取り組みを毎年続けていくことで、起業として設立されれば雇用も生まれますし、こうした動きを学生さんが知れば雇用につながるようになると思えます。ですから、ぜひ行政としては PR をお願いしたい。群馬で何かおもしろいことをやっているんだということを PR できるようなルートができればいいのではないのでしょうか。

例えば学生が卒業して住所も実家しか分からないとすれば、実家に本人向けに情報を送ってみる。「前橋はこういうことをやっている」というのを、費用の問題もありますが、毎年やるとか 3 年ごとにやるとか、5 年ごとにやるとか考えてみてはいかがでしょうか。市がやっているいろいろな良いこと、地元の実業家がやっている良いことをもう少し東京に行った人に PR することが重要であると思えます。実際に東京に就職した人も含めて、知らないとそれで終わってしまうのかと思えます。事業はそろってきましたから、そろそろ PR する時期

<p>曾我座長</p>	<p>に入っているのではないかと思います。</p> <p>続きまして武者委員さんお願いします。</p>
<p>武者委員</p>	<p>日本政策金融公庫の武者です。まず、前橋版の総合戦略全体についての感想ですが、現状分析を踏まえた上で理念、基本目標、優先課題とそれぞれしっかり考えられてつくられているという印象を持ちました。特に、全ての事業に「関係団体や NPO、住民との連携」が盛り込まれている点が素晴らしいことだと思います。行政だけでいくら進めてもできないことがあると思います。それをいろいろな連携の中で進めていく。これが非常に大事なことだと思います。これまでもいろいろな機関、団体と連携を進めてきていると思いますが、これをさらに一歩進めていく。そのためには、具体的に誰がどうやって進めていくのか、どのネットワークを使うのが、事業推進の肝になっていくと思います。そのアイデア出しも行政だけでなく色々な人に聞いてまとめていき、色々な組織の得意分野を活かしつつ進めていくことが大事ではないかと思います。</p> <p>10 のシンボル事業についてですが、「前橋市の強みを活かし、他市との優位性があり、かつオリジナリティのある事業を進めていくことが前橋市の抱えている課題の解決策になってくるということを市民に明示し理解していただく」ということで「シンボル事業」としてしていると理解しています。その観点から、前橋市の強みである「農業と食」が寂しいように感じます。7 番目の道の駅のところで農村という記載があり、42 の施策では「農業と食」という点も記載されていますが、シンボルとしてきちんと入れていくことが必要ではないかと思えます。例えば、農産物の加工品のブランド化推進といったようなことを道の駅を通じて PR していくことも考えてもらえればと思います。</p> <p>次に、学生の定着促進の観点では、市内の就職・就業を推進するために「大学生と企業のマッチング」が書かれています。もう少し若い世代（中・高校生）に地元以外の大学に進学しても群馬に帰って来たいと思えるような活動、例えば、ビジネスプランコンテストを県内の高校生向けにやっているところもありますので、県内企業が出張授業を行い、起業のためのアイデア出し、事業計画の作り方、採算性の考え方等をレクチャーし、起業に興味を持ってもらうとか、県内で起業した企業経営者の経験談を聞くとか、県内で仕事をしていくことに若いうちから興味を持ってもらう活動も大事になってくると思います。</p> <p>また、UIJ ターン対策では、大学生などの若者だけでなく、30 代後半から 40 代前半をターゲットにした地元企業の PR 活動、転職者向けの UIJ ターンの活動というのが大事になってくると思います。ライフイベントとして、介護の問題が顕在化してくるのは、この年代です。その時期に地元に戻らないといけなると考える人も多いと思います。この年代は転職をする適齢期の末期のところにあたっていきますので、最後のチャンスに県内の転職情報をタイムリーに届けることが対策として大事だと思います。</p> <p>最後に、女性活躍推進ですが、働く女性に対する支援は記載されていますが、</p>

受け入れ側の企業の取組に対する支援も重要です。また、創業、起業していくような女性たちに対する支援など、場面に合わせて女性が活躍していくフィールドをきちんと整備していく施策を打ってもらいたいと思います。

曾我座長

ありがとうございます。続いて、斎藤委員さんの方からお願いします。

斎藤委員

私からは子育て支援に関したことをお話したいと思います。子育て支援といいますと、職場でのサポートの側面や、病児病後時保育を充実させるといったことがあると思います。病児保育の話になりますが、37度を超えると保育園から預かってもらえないということがあります。その場合に安心して預かってもらえる施設があるといいと思う反面、その日に突然子どもを連れて行っても子どもにとっては安心できる場にならないということもあり得ます。そのため病児保育、病後時保育のニーズも高いと思いますけど、そうではないサポートも充実させていく必要があるかと思っています。

一つ目は、全保育園に適応というのは難しいと思いますが、1つには看護師が配置されているところだと預かりやすいということがあると思います。

二つ目は、子どもが熱を出したときに休みやすい職場であってほしいと思います。男女問わず職場の穴を開いた部分を許容するどころか、推進するという気持ちで働きかけていてもらいたいと思います。基本、母親のほうが仕事を休むのかと思います。小さい子がいる家庭では、父親も率先して休めるような職場作りをしていくことが大事になってくると思います。育休をいただいた男性や復帰したときに戻りやすい環境ができていると、男女問わずその方々が上司になった時、子育てと仕事の両立がしやすくなってくるのかと思います。

次に学童や保育園の預けられる時間について話がありましたが、フルタイムで残業なしで働いたとしてお昼休憩を入れて9時間労働ですから、例えば8時から17時や8時半から17時半、それから保育園までの時間を含めると保育園で預けた場合、延長なしで預けるのは難しいと思います。私の子を預けていた保育園では7時半から18時までだったので、夜は1時間延長していました。そして朝7時からの早朝保育が始まり、後に7時から18時までが標準時間になりました。これですと8時間勤務プラス昼休み1時間の職場であってもカバーできる施策、8時間プラス1時間で家に帰れるようなサポートをしていくことが大事になってくると思います。加えて、遅い時間（夕方5時過ぎ）から会議をするのを廃止していただくのと、保育時間を確保するといったことが行政の課題となってくるのかと思います。

もう一つ、行政の課題について、行政が直接行うこともありますけど、効率よくするというものもあると思います。先ほども話がありましたが、Mチェンジのことになりますが、市民にサポートしてもらおうということが様々な場で役立つのかと思います。

最後に、ワークショップの報告だけでなく、参加された方が直接来て声を聞いたことが大きかったと思います。また、今回はこの会議の目的のためにお話を聞かせていただいたわけですけど、考えてみれば色々な市民の方が色々な

課題を抱えてやっているので、そういう人が集まって自分の経験を出し合って、そこに市役所の様々なセクションの職員が同席させてもらうことにより、市民が抱えている課題や要望をより市の方で自覚しやすくなるのではないかと思います。その点で事業の中の①資料でご説明があった改善アクションの提言に向けたワークショップというように挙げられていましたが、ワークショップを開くことで市民の声を聞きながら、施策を組み立てていくというのを各分野で行うということが、実際の市民にとって意味のある計画作りになると思います。ぜひ、この点についてもっと深めてもらいたいと思います。

曾我座長

ありがとうございました。続いて鎌田議員さんお願いします。

鎌田委員

ワークショップのご意見ありがとうございました。とても参考になりました。総合戦略が大詰めになってきている中で、内容も練られてきているのかという印象です。これが前橋のビジョンにつながるようになってくるのかと思いますけど、こういった前橋を目指すといった中で出てきたのが、キャッチフレーズにありますけど「～子どもたちの元気な声が聞こえる、ずっと住みたい生涯活躍のまち、健康医療都市まえばし～」とありますので、これに沿ったストーリーがもっとあっていいという気がします。そのストーリーというのが10個の大きな柱に繋がるようなものがあっていいと思います。

子育てや働き方といったことについて教えていただきましたけど、地域で企業が集まって子育てセンターを作ることも一つの施策であると思います。そこには色々な企業の集まる、色々な自治会の方が集まる、あるいはCCRC関連で市内の方が集まってくる、子どもと触れ合うために学生が入ってくるというような仕組みがあってもいいかと思います。これは前橋の強みが縦ではなく、横に広がっていくような、例えば、食がいいなら前橋の離乳食を開発して、前橋のものを食べて、子どもが元気に成長を応援するものでもいいと思います。さらに、横のつながりを意識して、より深みが出てくるのではないかと思います。

総合戦略が突飛なことではなく、持続的、かつ長期的にできることが重要であると思います。その中で子育て、教育というところが出てきましたが、教育もいくつか総合戦略の中であったICT教育の中でありましたが、これについては注目したいと思います。

ICT教育というとコンピューターの使い方というイメージに偏りがあるが、現在はコンピューターをプログラムするということが注目されています。そこで、プログラミング教育を幼いうちから取り入れ、特別な食のメニューを追加し、その子育てセンターに行くとおいしいものを召し上がることができ、かつ子供も預かってもらえて面白い教育も受けられるといった横の繋がりを活かしたものがあるといいと思います。さらに印象に残るようなネーミングにしてPRし、多くの方々から親しまれ、市民がその価値を共有できるようなセンターを提言できるといいと思います。

最後になりますが、ICT教育の先を行くと子供たちが学生になり、その後大人になった時に起業するという局面があると思います。そして、ベンチャー編

<p>曾我座長</p>	<p>入して前橋が活性化するのではないかと思います。そういった流れをストーリー仕立てにしてみても面白いと思います。以上になります。</p>
<p>木暮委員</p>	<p>ありがとうございます。続きまして、木暮委員さんお願いします。</p> <p>私は子供のことについて触れたいと思います。先ほど共愛学園の学生からM-チェンジ教室に行っているというお話がありましたが、これは貧困家庭の方が対象で行っている事業で共愛学園の学生がボランティアで一生懸命やってくださり、学校では話しにくいことも話して、とても明るい環境で活動しているという印象です。</p> <p>現在、9箇所で行っておりますが、この活動を増やすことを市のほうで計画しているようですが、今話を聞いてとてもうれしく思いました。そして、工科大の方が広島焼きを食べたいから帰りたいという非常に単純なことでも地元で帰りたいということに繋がると思っています。前橋では前橋まつり、初市まつり、七夕まつりとありますが、もっと身近なところで色々な活動が出来たらいいと思います。私の地元では年一回、マス釣り大会を行います。普段子どもの声は全く聞こえず、とても寂しい町になっていますが、行事があるとあふれるばかりに人が集まり賑やかな町となっています。そういうこともとてもいい思い出作りになると思います。地元でも子どもたちが帰って来たいと思えるような町づくりに努めていきます。以上でございます。</p>
<p>曾我座長</p>	<p>ありがとうございます。続きまして、梅澤委員さんお願いします。</p>
<p>梅澤委員</p>	<p>私は資料④にあります10のシンボル事業についてお話したいと思います。10のシンボル事業は前橋の地域特徴を踏まえて作成された有効な事業であると思います。前橋版CCRC構想の推進は経済、地域の活性化に繋がると考えます。地域づくりの推進事業なので培われた前橋の持った高い地域力と移住されたアクティブシニアの活力をいかに繋げるかが大きな課題となっています。私どもの社会福祉協議会ではボランティアセンターを運営しておりますが、今後地域づくり推進事業「Mサポ」、シルバー人材育成センターとの連携を通じてアクティブシニアの活躍の場を広げていきたいと考えております。</p> <p>以上です。</p>
<p>曾我座長</p>	<p>ありがとうございます。続きまして、代読ですが村井さんお願いします。</p>
<p>曾我座長(村井さん)</p>	<p>現在、全国各地の市町村で総合戦略を作っております。前橋も前橋版総合戦略がありますが、前橋の強みを活かした取り組みを入れていただいたことはありがたいと思います。</p> <p>前橋は非常に落ち着きのある町でありますし、立派な空気が漂う町並みを呈しております。誰でも温かく受け入れ、人情味あふれる市民性気質をもっております。また、文化芸術に対する造詣の深さというような市民性として</p>

	<p>おります。さらに自然災害が少ない、日照時間が長い、医療・教育が充実している、物価も非常に安いということで食・人・社会・経済全てにおいて生活しやすいというのが前橋のアピールだと思います。そういった面から今回、作っていただいた理念「～子どもたちの元気な声が聞こえる、ずっと住みたい生涯活躍のまち～」というのは非常にいいテーマであると思います。これを解決するために具体的に42の項目を挙げていただきました。是非、これを実現するためにはここに集まってくださった方はもちろんのこと、市民の方全員、また企業の方を含めてみんなで意識を共有する中で進めていかないと難しいと思います。</p> <p>この総合戦略とは別に色々な事業で市も観光のビジョンを作ったり、中心市街地の活性化の基本計画を作ったりとしていると思いますが、そういったものを5年間で成し遂げるためにそういったビジョン全て、意識を共有する中でビジョンを作っていく、またそれに携わっている人もこういったことを理解してやっていくことが大事だと思いますので、是非、商工会議所でも協力させていただきたいと思います。</p> <p>以上でございます。</p> <p>ありがとうございます。委員の皆様から貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。</p> <p>そして、先ほども申し上げましたけれど、前回ワークショップを開催したらいいだろうということで、早速皆様のご尽力でワークショップをやっていただき、そしてなかつ、全国でも非常に珍しい例だと思いますけれど、有識者会議にワークショップに参加していただいた方々が来ていただいて実体験を述べていただいた。大変良かったかなと思います。</p> <p>以上をもちまして、定刻の時間が参りました。皆様方、お集まりいただきましてありがとうございます。この後につきましては、先ほどもお話がありましたがこのような形で第5回有識者会議に向かっての準備を進めさせていただきたいと思います。</p> <p>改めまして、座長といたしまして委員の皆様、そしてワークショップに参加し、今日ご出席してくださった方々に厚く御礼申し上げます。座長の席を下ろさせていただきます。</p>
曾我座長	
藤井政策部長	<p>曾我座長さん、議事進行ありがとうございました。</p> <p>また、委員の皆様からは貴重なご意見がいただきました、大変ありがとうございました。</p> <p>それではこれから事務局から連絡事項がございます。</p>
原田政策推進課長補佐	<p>今後のスケジュールにつきまして概略をご説明いたします。</p> <p>今日、いただきましたご意見等を踏まえまして前橋版人口ビジョン、それから総合戦略案につきましては、1月19日に開催されます、市議会の総務常任委員会におきましてご報告いたします。その後1月21日から2月19日までパブ</p>

藤井政策部長	<p>リックコメントを実施いたしまして広く意見募集を行う予定でございます。</p> <p>次に、次回の有識者会議についてですが、2月25日（木）午後2時からを予定しております。次回の有識者会議が最終回になる予定でございます。</p> <p>また人口ビジョン、総合戦略のご意見等、今日の時間では足りなかったと思いますので事務局のほうで様式を作りまして皆様方にメールをさせていただきます。1月末を目途にご意見をいただきまして、それらを踏まえて第5回有識者会議に望めればと思っております。よろしくお祈いします。</p> <p>3月上旬には前橋版人口ビジョン並びに総合戦略を完成させたいと考えておりますので、引き続きご協力のほどよろしくお祈いします。</p> <p>最後に事務局の説明に対するご質問等ございましたらお祈い申し上げます。よろしいでしょうか。</p> <p>大変、長時間にわたりまして皆さんありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、県都まえばし創生本部第4回有識者会議を閉会させていただきます。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--------	--